

第10回ふるさと川柳コンテスト審査委員選評

最優秀賞	そろばんで願いましたは未来まで	
	大西委員長	古くからのそろばん用語の「ご破算で願いましたは」という言葉、そのあとに「未来まで」と結んだのはスゴイですね。地元の宝でもあるそろばんを通して、過去から未来への長い時間をとらえた見事な一句になりましたね。
	清水委員	小野市は日本一のそろばんの産地。「願いましたは」は、江戸時代から続く読み上げ算の掛け声です。近年はパソコンや電卓の普及によりそろばんの需要も減っていますが、400年以上も続く播州そろばんの歴史と伝統を継承して行ってほしいものです。
	上田尾委員	そろばんづくりで有名な小野市。そのふるさとの“名産”を、そしてふるさとへの“思い”までも未来へとつないでいこうとする作者の改めての気持ちを、「願いました」というそろばんを始める時に使う言葉でうまく表現されています。未来までもつながるふるさとへの“思い”が込められた素晴らしい句です。
優秀賞	マスクとる肌で感じた夏の風	
	大西委員長	コロナ禍の間は本当に長かったですね。マスクをするのが当たり前になり、相手の表情もよくわかりませんでした。そしてマスクを外せるようになった今、肌で直接感じることの出来る風のすがすがしさがとても上手に詠み込まれています。
	清水委員	新型コロナの感染症法上の位置づけが変わり、学校でもマスク着用を求められることがなくなりました。とはいうものの、なかなかマスクをとることができません。暑い夏を迎え思いきって外してみると…。「肌で感じた夏の風」という表現が秀逸です。
	上田尾委員	新型コロナ流行に伴いマスク着用など様々な制限を受けたここ4年。しかし5類移行に伴い徐々にその制限が緩和され、日常が戻ってきた喜びが、「夏の風」を感じることに、さらに強く感じられる句です。
優秀賞	べっちょない言うてもろたら頑張れる	
	大西委員長	「べっちょない」という方言、いいですねえ。大丈夫だよ、なんて気取って言われるより、力が湧いてきますよね。自分たちが日常で使っている言葉がステキな一句になりました。
	清水委員	「べっちょない」は「別条ない」がなまったものと言われます。失敗して落ち込んでいるとき、べっちょないと声をかけられたら、「まあ、生命に関わるわけでもないし何とかなるか」と元気が出ますね。前を向くことを思い出させてくれる魔法のお国言葉です。
	上田尾委員	播州弁で使う「べっちょない」。「大丈夫」と言う意味だが、現在若者はあまり使用しない。傷心しふるさとに帰った時に、祖母か祖父か周りからの励ましの言葉だろう。この言葉をかけられて勇気を奮い立たせることが出来ると同時に、ふるさとの“温かさ”を感じる事ができた思いが感じられる句です。
優秀賞	アキアカネ山田錦の波こえる	
	大西委員長	とても美しい一句ですね。アキアカネの赤色と山田錦の黄金色がこの句を読む人の目に浮かんで来ることまちがいないです。やがて美味しいお酒になる山田錦の穂が揺れているのまで感じて来ましたよ。
	清水委員	暑さに弱いアキアカネは、夏の盛りは山などの涼しい場所で過ごし、夏の終わりになると生まれた田んぼに帰ってくるそうです。黄金色に色づいた稲穂の海を、群れをなして飛ぶ赤とんぼの姿が目に見えるような作品です。
	上田尾委員	ふるさと北播地区で有名な酒米“山田錦”。各地に広がるその田に実る稲穂。風になびくその様を海の波に見立て、そこを飛ぶアキアカネ。金色の稲穂の波の上を飛ぶ赤いアキアカネ。情景が見事に思い浮かぶ素晴らしい句です。